県立学校の校長先生方へ

校長先生方、こんにちは。この映像は教育長室からお送りしております。事前の打ち合わせで高校教育課から与えられた時間は５分です。５分経過したら話の途中でも撮影が打ち切られるかもしれない、そんな不安を抱いています。時折、授業っぽく動く場面もありますが、ああ授業なんだと思ってください。

このたび新型コロナウイルス感染拡大の防止のため、学校の臨時休業を延長させていただきました。校長先生方には突然の要請にもかかわらずご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。感染防止の取り組みを徹底して進めていただいている最中のことで、せめて始業式・入学式は実施を、という思いもありました。しかし安全面、安心面を最優先しました。また直前の日曜日午後の決定で校長先生をはじめ学校の先生方にはたいへんなご負担をおかけしました。

今後の学校再開においては、授業時間の確保という観点から保護者を招いての入学式は実施しない方向をお示しさせていただいておりますが、入学に必要な書類のやりとりなど学校ごとに工夫されている様子を伺い、心強く思っているところです。今後の状況にもよるのですが、保護者、特に新入生の保護者に学校としてお伝えしたいことをどのように伝えるか、このことについてもそれぞれの学校の状況の中で工夫していただければと思います。

さて休業中の生徒さんに対する学習支援の試みの一つとして、動画を取り入れた授業展開の工夫が考えられます。本日はその実験としてこの動画を撮影しています。私自身、動画に自ら進んで登場することは普段なら決してないのですが、私もできることはしなければならないという覚悟で今カメラの前に顔をさらしています。覚悟といえば校長先生方の方がこんな映像を見なければならないということで、私以上の強い覚悟が必要なのでした。

４月１日、教育長就任会見なるものに臨み、「本日はせっかくの機会ですので、この場を借りて学校の先生たちへのメッセージを２点だけ述べさせてください」と前置きをして、「学校の生活」の充実ということと、「先生の背中」を子どもたちは見ている、ということについて話をさせていただきました。（紙出し）将来のためといって実際に生きて生活している現在を貧しくことはやがて来る未来をも貧しくする、今を充実させることが未来の充実につながるのではないか、という話と、（紙出し）学校の先生は勤務中はもちろん、学校を離れても良識ある大人、責任ある大人として生きることを強く意識してほしい、という話です。

10分ほどの時間をいただいて一生懸命話しました。しかし翌日の新聞記事の見出しはこのように「少人数教育を推進」（新聞記事出し）。この言葉は10分間の話の

終わりの方で一回だけ使った言葉です。いろいろ準備して、考えて進めようとしても、なかなか世の中は思うとおりにいかないものだと実感した次第です。

この二つのメッセージは、学校の先生方に求めるばかりでなく、私の県教育長という立場も同様で、日常の全ての行動が問われていると思います。学校生活の充実のためにできることは何かを常に考えていなければなりませんし、また私の背中を子供たちが見ることはきわめて少ないかもしれませんが、いつどこで見られてもいいように、誠実な生き方を心がけなければなりません。

私は３月末をもって 37 年間の勤務を退職しました。定年まで勤め上げ、3 月 31 日は家に帰って女房から久しぶりにやさしい言葉をかけてもらえると、前々から楽しみにしていました。しかし新年度も引き続き働くことになりました。女房からのねぎらいの言葉はもう少し先延ばしし、また新たな気持ちで任務にあたっていきたいと思います。

臨時休校が続くことによる子供たちや保護者の不安、学習への懸念など、様々な課題があります。そのことと感染拡大のおそれとの間で難しいバランスをとっていかなければなりません。日々状況は変化しています。県教育委員会としましては、各学校の校長先生方と協力し、関係機関と連携しながら丁寧に対応していくつもりです。よろしくお願いいたします。

本日はこの映像を視聴していただき、ありが(ぶちっ)とうございました。